

— 告 白 —

KIT
キャンパス
レポート
文・杉村裕之



竹田 沙紀 (たけだ さき)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程二年
富山県立魚津高等学校出身

大学院一年で論文採択、 未知への挑戦で得た勲章。

小指の爪先ほどの蛾が飛べる秘密は何なのか。特徴である楯形をした翼を持つ「揚力」と「抗力」を自作の実験装置で測定し、その空力特性を世界で初めて明らかにしたのが、竹田さんである。

「学部四年から一年半、この実験にかかりきりで、朝から晩まで研究室という日も珍しくなかったですね。でも、誰もやっていないこ

とへの挑戦が楽しくて、つらいとは一度も感じませんでした」

その成果をまとめた論文は昨年暮れ、日本航空宇宙学会論文集に見事、採択となった。指導する岡本正人教授によると、院生一年での採択はまれだそうで、「今回の研究は、現在、開発が進められる火星探査航空機にも応用できる可能性がある」と、その意義の大きさに口調

は熱を帯びる。

竹田さんが飛行機に興味を持ったきっかけは、中学生の時、毎回欠かさず見た航空管制官を描いたドラマだった。「俳優さんも魅力的でしたが、事故がなぜ起きるのか、興味はいつの間にかそっちにいつていました」。入学した地元進学校は国公立志向が強く、「KITの航空システム工学科で学びたい」と切り出せない悩みもあったが、企業で研究職に就く父が背中を押してくれた。そして、出会った岡本先生が、彼女の好奇心と挑戦心に火をつけた。

「学部二年でした。昆虫の翼と飛行の関係をそれは楽しそうに語る先生の授業に、ぐいぐい引き込まれました」。さらに、「昆虫の翼に作用する力を測れるのは、世界でもうただけだよ」と言い切る先生の自信に、「自分も未知の領域を開拓し、発見の喜びを味わいたい」と岡本研究室を志望したのだった。

三年終わりのこの時点で、竹田さんの頭の中には既に大学院があった。じっくり腰を落ち着けて研究するためである。父に相談したら「大学院の研究は絶対に向かい」と、自身の青春を振り返り賛成してくれた。学費も含めてこの応援がなければ、今回の快挙もなかったのだらうと思つた。

ただ、父譲りの生粋の「リケジョ」との見立ては早計であった。中学時代は吹奏楽部でホルンを吹き、高校では放送部でアナウンスや朗読、地元ケーブルテレビ局の番組づくりにも加わったという。そんな文系ほさは、大学で古典文学を学び、今も趣味で娘とギターを弾く母の遺伝子を受け継いでいるからだろう。笑顔がすてきな竹田さんの向こうに見える家族愛に、わたしの心もほっこりと緩んだ。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘五七一
電話番号 〇七六二四八二〇〇〇